



○ 市長の政治姿勢について  
○ 子育て環境日本一のまちを目指すことについて

その他の質問  
・勝山市におけるグリーンインフラについて

李 江嵐 議員  
優政一心会



議 市長の政治姿勢について伺う。中学校再編について8000人という市民の方々が署名しているという事実についても、きちんと受け止め、理解し、向き合っていたいただきたい。今後、市民に寄り添い一緒にまちづくりをしていこう、勝山を盛り上げていこうと思っているならば、現在のそのような政治姿勢は悪循環になるのではないかと危惧している。今私が言ったような政治姿勢に対する市長自らのお考えを伺う。

理 私が重要な政策の立案にあたり、いつも念頭に置いているのは、その政策が市民や関係者にとって必要なものかどうか、現在そして将来の勝山市にとって望ましいものであるかどうかで、市民の福祉向上に資するものなのかどうか。そして、政策の推進にあたり最も重要視しているのは、勝山市議会の議決。

今後勝山市議会とともに、将来の勝山市の発展を図り、日々の市民の安全安心、それから子どもたちや高齢者の笑顔を守っていききたい。

議 日本一の子育て環境を確実に実現させるにあたり、具体的な目標やビジョン、ゴールの共有は重要だと考えます。明確な、または具体的な、目標やビジョン、ゴールを伺う。

また勝山市でも2歳児未満の児童への紙おむつの配給制度を設けることに加えて、市内保育施設では紙おむつを持っていかなくても良くなるよう、また保育士の業務負担軽減の意味でも紙おむつを配給する保育施設支援の施策があつて然るべきだと考える。

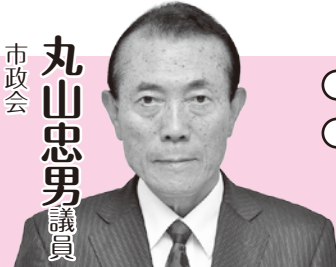
紙おむつに関する施策は、初期の子育て世代や保育施設の負担軽減に有効だと思うが紙おむつに関する施策を設けることは検討していただけるのか見解を伺う。

「安心して結婚・出産・子育てができるまち」を政策目標とし、その実現のため、市の独自政策として様々な子育て支援を実施している。どこまでがゴールかというのは、答えが難しい。紙おむつに対する施策については考えていない。



○ 勝山市における会計年度任用職員の現状について  
○ 中高連携型勝山市立新中学校の建設について

丸山 忠男 議員  
市政会



議 非正規の地方公務員の処遇を改善するためとして導入された、いわゆる会計年度任用職員に対して「雇止め」や低水準の処遇などが県外の一部の市町で問題になっているが、この制度について市長の見解を伺う。

行政課題が複雑・高度化するなかで、市民の期待に応え、より質の高い行政サービスを提供していくためには、その最前線で業務を担う会計年度任用職員は、現実市政の重要な担い手となっている。市政の安定的かつ能率的な運営を行っていくため、それぞれの職の必要性はもとより、業務の内容や責任の程度などを十分勘案しつつ、今後会計年度任用職員の適正な人員配置に努めていきたい。

また、任用期間は原則1年ごととなっているが、職員の客観的な能力実証による公正な評価をしつつ、採用試験を改めて実施することなく、3年間は任用を継続している。3年経った後も面接等を行い、法律の趣旨を踏まえ継続雇用を実施し、できるだけ柔軟な対応をしている。

議 勝山市立新中学校は中高連携型の学校として現在勝山高校の敷地に併設する再編計画が進められている。中高一貫校は入試がないなどの利点があるが、その点を補う工夫について教育長の見解を伺う。

連携型の中高一貫教育校においては、連携生徒が連携高校へ進学を希望する場合には、学力検査によらない簡便な入試で入学者選抜を実施するということが可能となっている。実際、県内の3地域の連携型中高一貫教育校も、対象の生徒に対して簡便な入試を実施している。

ただ、勝山市の新中学校は、市内で1校の中学校となるので特定の連携クラスは設けず、生徒全員が中高連携を生かした教育を行うこととしているので、勝山高校への進学を希望する生徒に係る入学者選抜のあり方については、特色選抜や推薦入試など、他の制度も含め入学者選抜を実施する県教育委員会と協議していきたいと考えている。